



あなたにぴったりの湿地は

とう ぶつ こ
濤沸湖



こんなところ ↓

濤沸湖



秋山 恵美子（濤沸湖水鳥・湿地センター）



とうふつこ
濤沸湖全景
西側の一か所が海とつながる
湖面の 900 ha がラムサール
条約登録湿地

とうふつこ
濤沸湖はオホーツク海に面し、あばしり 網走市・こしみず 小清水町にまたがる。浅い海に砂が長い年月をかけて長細く堆積し、海と分かれてできたかいせきこ 海跡湖である。最大水深は 2.5 m、平均水深は 1.1 m と浅い。海とわずかにつながり、海と川の水が混じり合うきすいこ 汽水湖で、湖の奥まで海水が流れ込む。名前はアイヌ語の「ト・プツ（湖の口）」からきている。



オオハクチョウ

10月上旬～5月上旬に見られる

厳冬期、種数は少ないが水鳥との距離が近い

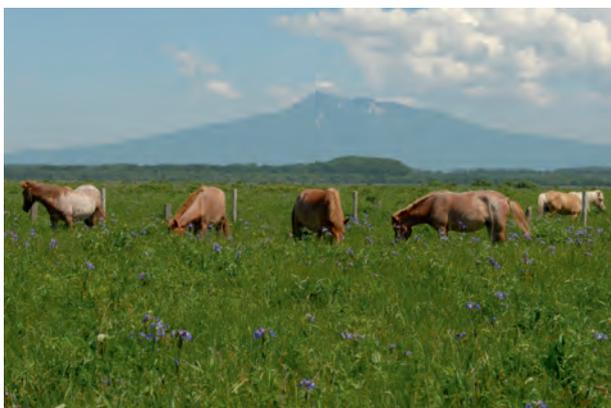
ここはガン・カモ類が飛来するわた 渡り鳥のちゅうけいち 中継地、えつとうち 越冬地として知られている。春と秋、湖は特に賑やかだ。ヒシクイは集団で鳴きながら湖上を飛び、オオハクチョウは逆さになってコアマモなどの海草を食べ、カワアイサは集団で水しぶきを上げながらワカサギを追い込んでいる。シギ・チドリの仲間も旅の途中に立ち寄り、とちゅう 干潟でゴカイやカニなどを食べて栄養を蓄える。希少なタンチョウ（→p.22）、オジロワシ（→p.31）はここで繁殖し、オオワシは冬を過ごす。海岸草原には南からノゴマ、オオジシギ（→p.29）などが飛来し、湖畔林にも野鳥は多く、今までに確認された野鳥は 260 種以上で、約半数が水鳥だ。これほどの野鳥がここを利用するのはエサとなる海草や小魚が豊富な藻場があり、湖の周辺をヨシ原、草原、森林が取り囲み、繁殖場所、隠れ場所になっていることなどが考えられる。



小清水原生花園と原生花園駅
遊歩道などが整備され、花や鳥を目当てに多くの人を訪れる

湖の北側にある小清水原生花園には短い夏の間
にヒオウギアヤメ、エゾキスゲ、エゾスカシユリ、
ハマナスなどの色鮮やかな花が次々に咲く。牛や
馬の放牧中止などにより外来植物が増えて花が目
立たなくなり、花園を維持するために行う火入れ*
や馬の放牧は風物詩になっている。北方系の昆虫
カラフトキリギリスは、日本ではここで初めて発見
された。見どころは湖畔や海岸にもある。春はミズ
バショウが咲き、夏はヘイケボタルが飛び、秋は
塩性湿地にアッケシソウが赤く色づく。冬は流水が
接岸して湖に流れ込む。

湖は観光地である一方、豊かな漁場でもある。
湖で確認された魚類は 40 種以上で、現在はワカ
サギ、スジエビ、シジミ漁、カキの養殖などが行わ
れる他、ワカサギの種卵を道内外へ出荷している。
サケやカラフトマスなどが川へ遡上して産卵する
が、生まれた稚魚は海に出るまで湖で育つ。沿岸
漁業にとっても重要な湖である。



放牧風景
馬が食べないヒオウギアヤメなどの花が草原を彩る
背景は百名山の斜里岳
写真提供：組野一弘



ワシ類の飛翔で乱舞するヒドリガモ、オナガガモなどのカモ類
このような光景は春と秋に見られる

このように命のゆりかごのような濤沸湖は 2005
年、渡り鳥の大規模な飛来地として国際的に重要
な湿地であることが認められ、ラムサール条約登
録湿地となった。また、国指定鳥獣保護区、網走
国立公園に指定され、小清水原生花園はワッカ原
生花園とともに北海道遺産に登録されている。

かつて湖の底が泥化し、漁業対象種のヤマトシ
ジミが激減したため、漁師は魚種ごとの漁期や漁
法を自主的に制限し、湖周辺の農家は土砂が流れ
ない工夫や農薬の削減などに取り組んでいる。湖
の一角には環境省が設置した濤沸湖水鳥・湿地
センターがあり、環境学習や保全活動の拠点となっ
ている。また、ラムサール条約の理念に基づき、
地域関係者で「保全と利用のためのルール」を策
定するなど、濤沸湖の自然を未来につなぐ取り組
みを行っている。

* 花などがよく育つように枯れ草などを焼くこと。



佃煮の原料となるスジエビ漁は
8～11月にかけて行われている



高層湿原